

障害者雇用 に 廃電線事業

柏崎電気組合など

継続的に仕事量確保

障害者の雇用を確保するため、柏崎電気工事協同組合（柏崎市日吉町）と柏崎市内の社会福祉法人、廃棄物リサイクル業者の3者は、廃棄される電線から有価物の銅線を取り出す事業を6月から始めた。電線のビニール部分を剥ぐ簡単な作業を障害者が請け負う仕組みで、県内初の取り組みという。



電線から銅線を取り出す作業を障害者に指導する横田理事長（右から2人目）と西川理事長（同4人目）（柏崎市の「ロングラン」で）

県内初 銅線取り出し収益

事業に参加するのは、企業への就労が難しい障害者の事業所を運営する社会福祉法人「ロングラン」（同市錦町）と、これまで同協同組合の企業から廃電線を回収してきた「宮田才吉商店」（同市藤井）。同協同組合の組合企業38社中22社が協力を表明している。6月29日、ロングランで覚書を交わした同協同組合の横田良英理事長は「仕事を市民からいただいていたので恩返ししようと考えてきた。事業が役に立つなら有意義だ」と話した。ロングランの西川紀子理事長も「柏崎での事業をきっかけに、全県で光がともれば」と期待を込める。

事業は電気工事が出た電線の切れ端などを1キロ100円程度でロングランが企業から買い取る。障害者が電線から取り出した銅線は、1キロ約500円で宮田才吉商店が買い取る仕組みだ。銅の相場により買い取り価格は変動するが、諸経費を差し引いても銅線1キロあたり約100円の利益が見込めるという。兵庫県で先行事例があるのを知った同協同組合が呼びかけた。

ロングランの西川理事長によると、事業所での障害者の主な仕事はカフェのスタッフや手芸作品の制作販売、ゴミ収集だが、仕事量が少ないことなどが課題だ。廃電線事業は大手企業であれば1社で年間約8トンは廃電線が出るため仕事量を確保でき、納期もなく継続しやすくなる。簡単な作業で

座ることができるので、様々な障害者が働ける可能性がある。29日は施設で働く男女2人が早速、電動剥離機を使って銅線を取る作業を試みていた。男性が機械の穴に電線をいれ、反対側で女性がかき取り、反対側で女性がかき取り、器用に銅線を抜いていた。今後はカッターやピーラーなど手作業を基本にして、障害や得意なことに合わせて分業するという。